

## 子どもたちの歌のピアノ伴奏をする保育者の 視線に関する調査と一考察

### A Study on What the Child Carers see When They Accompany Children's Songs on the Piano

山本 学 (静岡県立大学短期大学部)

鈴木 慶子 (秋草学園高等学校 幼児教育・保育進学コース)

YAMAMOTO Manabu, SUZUKI Keiko

#### Summery

What do the Japanese child carers see when they accompany children's songs on the piano? This is a purpose of this study.

As the result in 11 cases, there are 27% sight line to music score and hands of their own and 73% sight line to singing children. It has turned out that there is a certain tendency that they see children at beginning and ending of the song. But They don't see them in prelude.

#### 要旨

本研究は、一斉保育の場で子どもたちの歌の伴奏をする保育者の視線がどこにあるのかを調べ、その傾向について考察することを目的としたものである。

全 11 事例を調査したところ、伴奏中子どもたちに向けていた視線は 27%、楽譜や手元に向けていた視線は 73%であった。特に子どもたちの歌い始めと歌い終わりに、保育者は子どもたちに視線を向けている傾向が見られた。また、前奏においては楽譜や手元に視線を向けている傾向にあったことが明らかになった。

## I 研究の背景

本研究は、一斉保育の場で子どもたちの歌の伴奏をする保育者の視線がどこにあるのかを調べ、その傾向について考察することを目的とするものである。

一般的に「ピアノを弾く」という行為では、その視線は楽譜か手元にあると考えられる。しかし、筆者が保育現場を見学したときに、保育者は子どもの方を見てピアノを弾いていた。

保育のピアノ伴奏に関する先行研究においては、新海 (2016) 1)が以下の 4 つに大きく分類している。それは、①楽曲におけるピアノ伴奏部の簡略化、②伴奏に対するイメージに関する研究、③子どもの歌唱との関連、④子どもの歌の楽曲分析や詩の解釈を主としたものとなっている。本研究は、このうち③に当てはまりそうだが、新海が示している③の例とは親和性がないようである。

視線の動きに関する先行研究は、古川聡、梅本実、江澤聖子 (2016) 2)があ

る。これはピアノの視線に関して、初見演奏の読譜音符と実際に演奏している音符とのずれである視手範囲に関する先行研究を中心に概観し、ピアノ演奏の段階を全部で4段階に分類し、音楽大学の学生のような一定以上のスキルを持つ熟達者にさらなる演奏の向上を図るための方法を検討したものである。本研究においては、研究対象が違い、また視線に関しても、演奏技術の向上といったものではなく、おそらく子どもたちとの対話が保育者のピアノ伴奏に表れているといった類であると考えられる。

保育現場で子どもの歌のピアノ伴奏をする際の視線について、詳細に研究、検討されたものは見当たらなかった。本研究から得られる知見は、保育者を目指す学習者にとっては将来の実習や保育現場に入るためのシミュレーションとなる。また、保育者にとっても、無意識化で行っている行為の言語化となり、さらなる保育の検討の材料となるだろうと考えられる。

## II 研究方法

### 1 研究対象

東京都 K 幼稚園の幼稚園教諭 2 名 A、B 氏、静岡県 D 幼稚園の幼稚園教諭 2 名 C、D 氏の計 4 名を対象とした。K 幼稚園では電子ピアノで子どもたちの方を向いて弾けるのに対し、D 幼稚園ではアップライトピアノとなっていて、振り向かないと子どもたちの方を向くことができなくなっている環境である。

### 2 研究の手続き

K 幼稚園、D 幼稚園の責任者に了承を得て、4 名がそれぞれ保育の中で子どもたちの歌のピアノ伴奏をする様子を動画撮影する。4 名には研究の意図を説明せず、普段通りにピアノ伴奏をしてもらう。撮影後に研究の意図を説明し、倫理的配慮として、プライバシーと個人情報を保障し、データは匿名、個人が特定できないように取り扱うこととし、また、動画は外部には出さないことを説明した。そのうえで、研究へのデータ使用の承諾を得た。

### 3 調査内容

撮影した動画のうち、保育者の視線に注目し、曲のうちで鍵盤と楽譜を見ている箇所と子どもたちを見ている箇所（鍵盤と楽譜を見していない箇所）の両方を記録する。

### 4 研究の限界

全 4 名のデータでしかないこと、曲目の統一がされていないこと、ピアノの種類も異なること、保育者の経験やピアノの経験年数も統一されていないこと、各曲をどれだけ弾きこんでいるのか統制されていないことが挙げられる。データに恣意性はないが、偏りは起きていないとは限らない。また、なぜ目を離して弾くのかその意義と意味についても言及できないことが本研究の限界である。しかし、子どもの歌を伴奏する保育者の視線に関して、ある一定の示唆を提示することは可能であると思う。

### Ⅲ 結果

下記図において、著作権に抵触しないよう曲の構造を小節のみで示すこととした。黒く塗りつぶされているところが子どもたちを見ていた時間である。

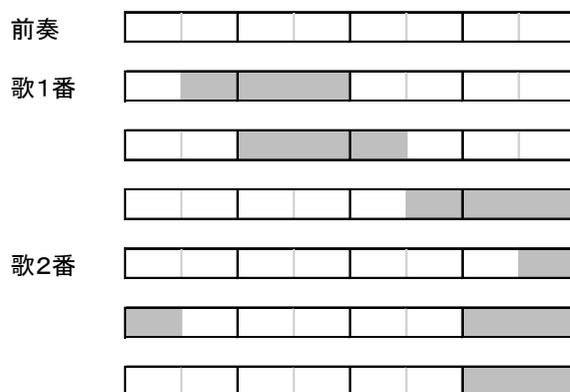


図1 A氏の「ゆきのペンキやさん」(則武昭彦/安藤孝)

A氏の「ゆきのペンキやさん」では、全28小節中、7.5小節間で子どもたちを見ていた。特徴としては、前奏では全く子どもたちを見ていないこと、1番の歌い出しと最後は見ていることなどが挙げられる。

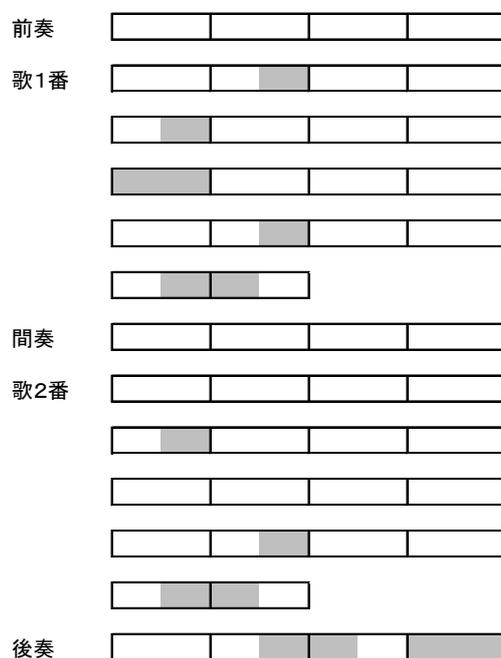


図2 A氏の「大きい木」(まどみちお/大田桜子)

A氏の「大きい木」では、全44小節中、7.5小節間で子どもたちを見ていた。特徴としては、図1と同じく前奏では全く子どもたちを見ていないこと、1番の歌い出しと最後は見ていることなどが挙げられる。また、全体で10回

子どもたちを見ていた。

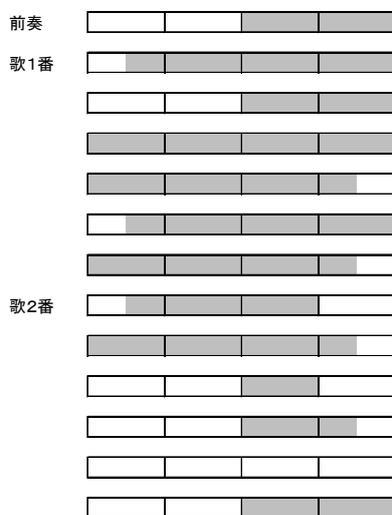


図3 A氏の「むすんでひらいて」(文部省唱歌)

A氏の「むすんでひらいて」では、全52小節中、32.5小節間で子どもたちを見ていた。特徴としては、ここでは前奏でも子どもたちを見ていた時間があったこと、1番の歌い出しと最後は見ていたこと、半分以上の時間で子どもたちを見ていたことなどが挙げられる。

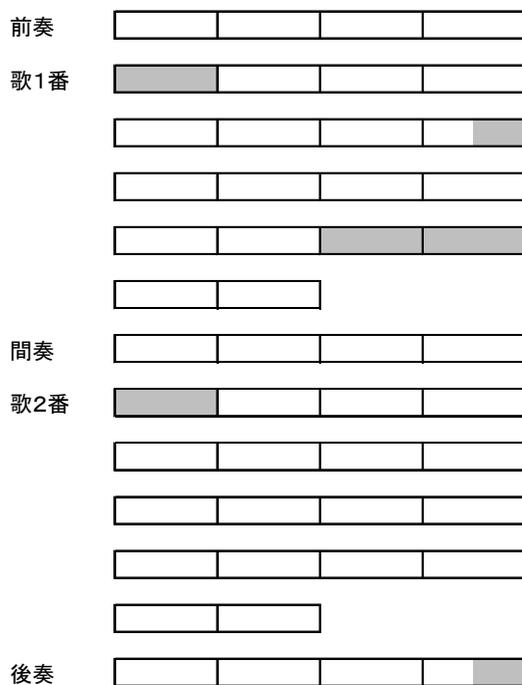


図4 B氏の「大きい木」(まどみちお/大田桜子)

B氏の「大きい木」では、全44小節中、5小節間で子どもたちを見ていた。特徴としては、前奏は子どもたちを見ていないこと、1番の歌い出しと最後は見ていることが挙げられる。A氏と同じ幼稚園で同じ曲を伴奏していたので比べることができた。その結果、全体では5回子どもたちを見ていて、1回に見る時間は長めだがA氏の10回子どもたちを見ていたことと比較すると回数が少ないことが挙げられる。



図5 B氏の「地球をくすぐっちゃオ」(三浦徳子/渡辺貞夫)

B氏の「地球をくすぐっちゃオ」では、全24小節中、3小節間で子どもたちを見ていた。特徴としては、前奏は子どもたちを見ていないこと、最後は見ていることが挙げられる。ここでは歌い出しでは子どもたちを見ていなかった。最後の方で見る回数が多くなったのは、子どもたちの歌詞があやふやなため、歌ってきかせようと子どもたちの方を見ていたためである。



図6 B氏の「ふしぎなポケット」(まどみちお/渡辺茂)

B氏の「ふしぎなポケット」では、全28小節中、0.5小節間で子どもたちを見ていた。特徴としては、前述ではほとんど前奏で子どもたちを見ていなかったがここでは1回見ていることである。歌い出しや最後で子どもたちを見ることは見られなかった。

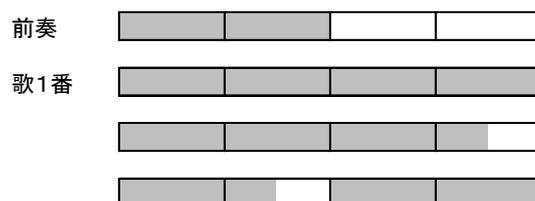


図7 B氏の「おはようのうた」(高すすむ/渡辺茂)

B氏の「おはようのうた」では、全16小節中、13小節間で子どもたちを見ていた。多くの箇所子どもたちを見ており、目を離したのはピアノの指が大きく変化するときである。動画では弾き慣れている様子が見て取れた。

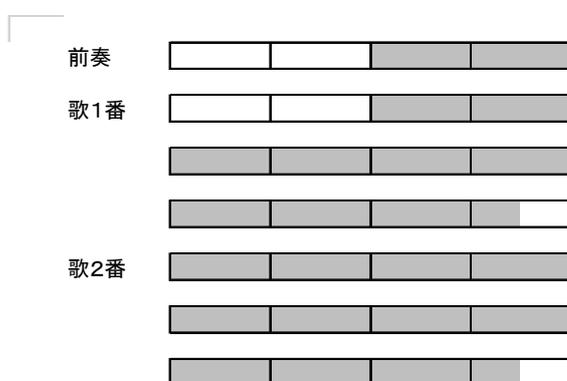


図8 C氏の「おはよう」(増子とし/本多鉄磨)

C氏の「おはよう」では、全28小節中、22小節間で子どもたちを見ていた。多くの箇所子どもたちを見ており、目を離したのは弾き始めの部分と歌い始めの箇所である。C氏は園の環境がアップライトピアノで子どもたちに背を向けての形だったが、ほとんど後ろの子どもたちを見ていた。

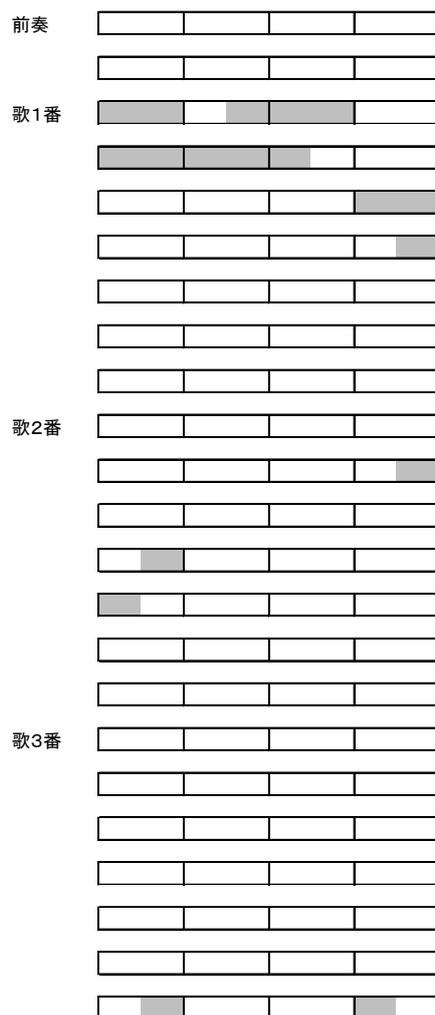


図9 C氏の「クラリネットをこわしちゃった」(石井良子/フランス曲)

C氏の「クラリネットをこわしちゃった」では、全92小節中、9小節間で子どもたちを見ていた。1番の最初の方で子どもたちに向かって振りかえっていたが、だんだんと少なくなっていく。

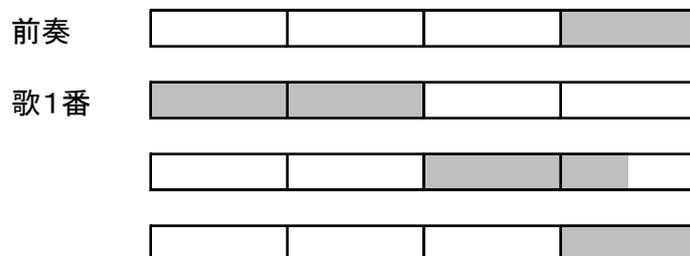


図10 D氏の「ちゅうりっぷ」(日本教育音楽協会/井上武士)

D氏の「ちゅうりっぷ」では、全16小節中、5.5小節間で子どもたちを見て

いた。歌い始めと歌い終わりではしっかりと子どもたちを見ていた。

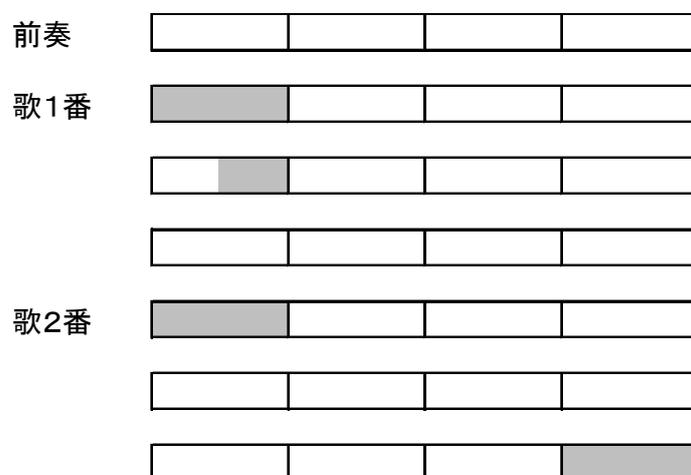


図 11 D 氏の「おべんとう」(天野蝶／一宮道子)

D 氏の「おべんとう」では、全 28 小節中、3.5 小節間で子どもたちを見ていた。同じく歌い始めと歌い終わりではしっかりと子どもたちを見ていた。

#### IV 考察

##### 1 歌い始めと歌い終わりの小節での視線

全 11 事例のうち、1 番の歌い始めの小節と曲の歌い終わりの小節に注目し、その小節で視線が子どもたちに向いているか、図 1 から図 11 までを集計した。

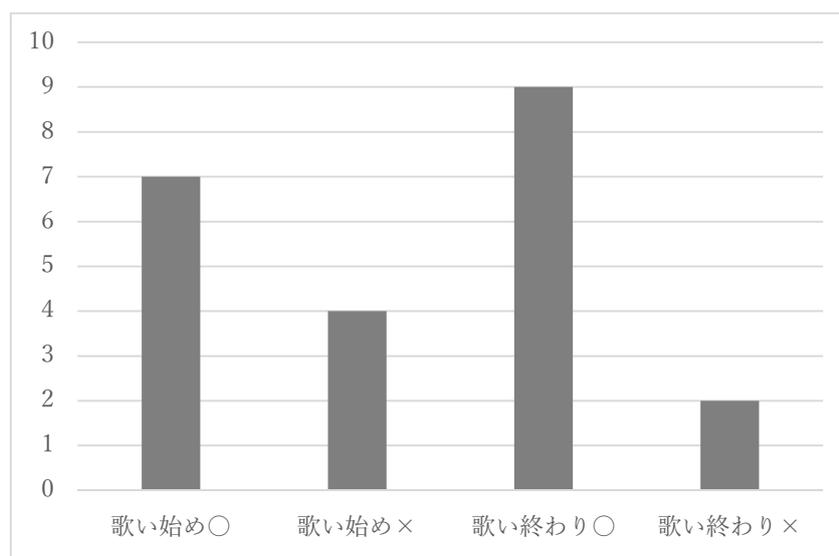


図 12 歌い始めと歌い終わりの小節での視線の事例数

歌い始めで子どもたちを見ていたのが 7 事例、見ていないのが 4 事例、歌い

終わりで見ているのが9事例、見ていないのが2事例となった。曲全体の中でも歌い始めと歌い終わりでは見ていることが見ていないことよりも多いことがわかった。

## 2 前奏での視線

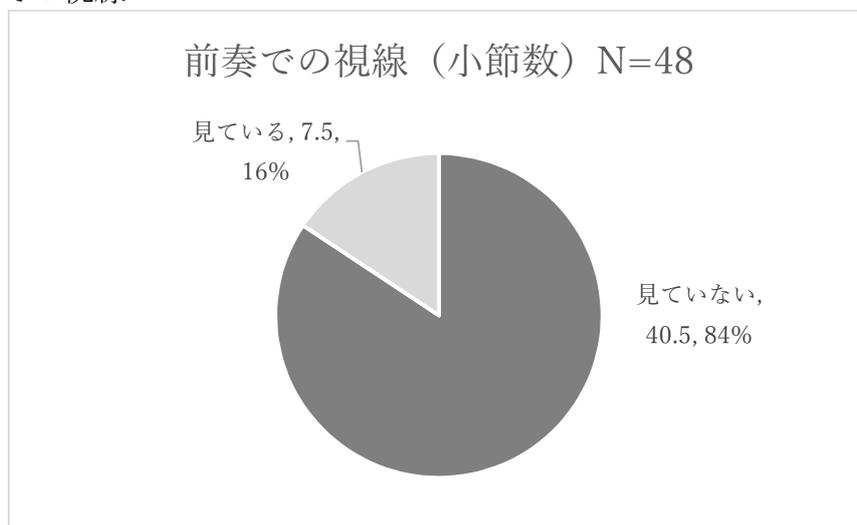


図13 前奏での視線の小節数

前奏で見ている事例は5事例、見ていなかった事例は6事例。前奏では子どもたちを見ていないことの方が多くなっている。

## 3 子どもたちを見ていた小節

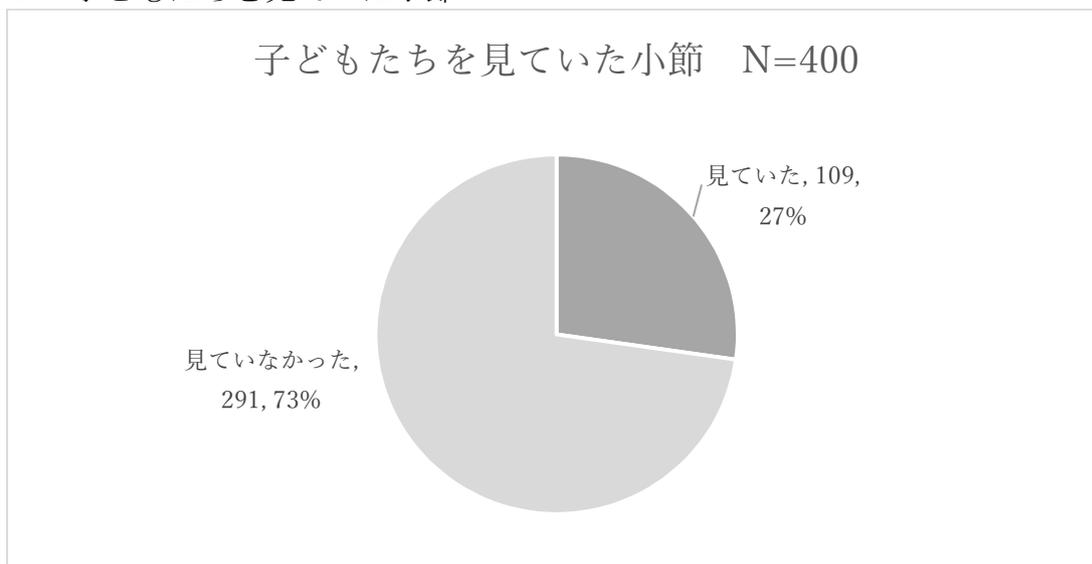


図14 子どもたちを見ていた小節

11事例の全400小節中、子どもたちを見ていたのは109小節(27%)で、見ていなかったのは291小節(73%)だった。本研究において保育者は1/4は子どもたちを見ていたという結果となった。

## V 終わりに

本研究を行って、なぜ保育者はピアノ伴奏をするときに子どもを見るのかという疑問が大きくなったので今後の課題としたい。また、事例や対象者の数が限定された研究となったので、さらに数を増やしたり、厳密な統制をとったりなどして研究を深めていきたい。

## VI 参考・引用文献

- 1) 新海節（2016）小学校教員及び保育者養成課程におけるピアノ伴奏法，藤女子大学人間生活学部紀要第 53 号，pp.81-88
- 2) 古川聡、梅本実、江澤聖子（2016）視線の動きからみたピアノ演奏と熟達者の指導法への提案，国立音楽大学研究紀要第 51 号，pp.147-158，2016

(2018 年 1 月 16 日 受理)